

第3回審議会での意見概要

1 今後の大きな方向性等について（「総合計画の体系図」、「都市像」等に関連して）

(1) 総合計画の体系図

- ① （今と10年後は）豊かさも変わる、豊かさを実現する手段も変わる、違う豊かさをどこで示すか。「基本構想」は、市民の決意とか原則ということであり、基本構想で示したことから外れることはしないという枠組みが必要。
- ② 市民が見て、鹿児島市はこういう計画だというのが、大まかなことから具体論まで、（基本構想→基本計画の）流れで分かるようにすべき。
- ③ 総合計画は市の各部署のための10年計画なのか、市民のための鹿児島市がどうなっていくのかという10年の計画なのか。市民からの分かりやすさということでは、基本構想では「鹿児島市がどうなっていくのか」をまず横軸的なものとして示し、組織別の縦軸（6つの基本目標、その下の基本施策、単位施策、事業の一連の系統）は市役所内部で整理すればよい。
- ④ 行政サイドの必要とする計画と、市民が求める計画とは、バランス的なものが求められる。

(2) 都市像など

- ① 我々はこれからこういうことを大切にします、こういう豊かさを求めていきます、ということの基本構想に入れることによって、鹿児島市民の10年後に対する熱い思いが、責任とともに出てくるものと思う。
- ② すべてのことで10年後、20年後を考えた時、どういう中身的な変化を我々はこれから追及していかなくてはならないのか。我々が10年後、20年後に本当に何を大切にすべきか、どういう鹿児島市になっていくのか、そういうところをもう少し議論したほうがいいのではないか。
- ③ 今の時代に行政にいろいろと要請するということは、後の世代に多大な借金を残すということであり、そこを考えて、やはり市民でできることは市民でやるという意識を一人ひとりが持つ必要がある。
- ④ 市民に対しては、みんなで相当な努力、負担もしなくてはこういうまちはできないのだ、そういう難しさにチャレンジしていこうということを強く表に出してほしい。

2 「戦略テーマ」、「戦略プロジェクト」について

(1) 位置づけなど

- ① 基本目標が戦略テーマのようなもので、基本計画自体がまさに戦略プロジェクトになるのではないか。
- ② 実施計画に至るまで、常に戦略テーマを考えながら進めていかなくてはならない。
- ③ 戦略テーマについて、「・・・まちを目指します」は、6つの基本目標「・・・まち」との重複感がある。突き詰めれば都市像になると思うが、このようなきれいな言葉は出来るだけ絞るべき。そういう意味で、「戦略テーマ」を設けず、「戦略プロジェクト」で具体的に横断的なものを示すというのでよいのではないか。

- ④ 縦割りの弊害を是正するための装置付けというものは必要だと考えるので、横断性とか連携性とか、目的達成に向けた基本目標相互の調整の概念が分かるようになっていけばいいのではないか。
- ⑤ 戦略テーマ、戦略プロジェクトについて、市民生活の課題に対応したベーシックなことを押しえ象徴するものだとするならば、少し議論が足りないのではないか。特に取り組む部分と言う意味で絞るのであれば、「食」関連のプロジェクトなどは面白い。
- ⑥ 戦略プロジェクトは、策定後の見直し毎にきっちり詰めていかないと、財政負担が厳しい時代になる。

(2) 内容

- ① 戦略プロジェクトについては、これだけは必ず実施する具体的なことに絞って示すほうがよいのではないか。
- ② もう少し長期的な視点、10年後も当てはまるかどうかという視点も必要。
- ③ 今後の医療・福祉の費用が膨らむことを踏まえ、新たに横断的に取り組んでいく部分が必要ではないか。(要介護者になる前の介護・病気予防や、元気な高齢者が活躍できる環境づくりへの戦略的な取組など)